

# 山中 みゆさん

Miyu Yamanaka



## Profile

やまなか みゆ (18歳・畷町)

富岡東高等学校3年。県内初の7人制女子ラグビーチーム「徳島セブンフェアリーズ」のキャプテンで、チームのまとめ役。2年連続で徳島県ラグビー優秀選手に選出される。ポジションはスタンドオフ(SO)。好きな食べ物はグラタン。休日は料理や映画鑑賞などを楽しむ。尊敬する選手はラグビー日本代表キャプテンのリーチ・マイケルさん。座右の銘は「好きなものこそ上手なれ」。

## 徳島女子ラグビーの先駆けとして活躍

2016年のリオデジャネイロオリンピックから正式種目として採用される7人制ラグビー。徳島県では、2013年に県内初の女子ラグビーチームとして「徳島セブンフェアリーズ」が結成され、山中さんはそのキャプテンとしてチームを率いる。加えて2年連続で徳島県ラグビー優秀選手に選出されるなど、実力も折り紙つきだ。ポジションはスタンドオフ(SO)。自陣ゴールの近くに位置をとるバックス(BK)のなかでも、相手ゴールへボールを進めて得点につなげるための司令塔的役割

を担っている。持ち味は正確なキック力と、相手が向かってきても簡単には倒れない体幹の強さ。監督を務める父、一剛さんのもと、県内各地の中学や高校から集まった14人のチームメイトと一緒に、鳴門高校のグラウンドで日々練習に汗を流している。

幼い頃から趣味がラグビー観戦。大学ラグビー界で活躍し、現在も徳島県ラグビー協会委員を務める父の影響が大きかった。高校1年生のときにフェアリーズが結成されると、その1期生として加入。選手として

は全くの初心者での挑戦だったため、最初は対戦相手の迫力やグラウンド内の空気に圧倒されたという。「一番大変だったのは、人に向かつてタックルしなければならぬこと。どれだけ練習しても恐怖心がなくなりませんでした」とその頃を振り返る。精一杯練習して臨んだ初試合では、男子小学生のチーム相手に大敗するという悔しい経験もした。しかしタックルや走りこみなどの基礎練習や試合経験を少しずつ積み重ねることによって壁を克服。持ち前の度胸と粘り強さでチームの中心的選手へと成長していった。

「ラグビーの最大の魅力はチームメイトと協力しながらボールをつないでいくところ。団結感を感じられるので、プレーしていてすごく楽しいんです」と笑顔を見せる山中さん。地道な体力づくりや基礎練習を頑張れるのは、ラグビーが好きだということに加え、一緒に取り組むチームメイトのおかげだ。また、県外遠征や大会では同世代の選手と出会い、たくさんの刺激をもらっている。

「徳島県のラグビーはまだまだ発展途上。県外のいろんな選手と交流することで高いレベルの技術を肌で感じられるし、自分の弱点を見つめ直す機会にもなります。特に愛媛ラグビー(愛媛県)は同じ四国のチームだということもあって、私たちの永遠のライバルでもあります」

フェアリーズは結成3年目。昨年は県女子ラグビーで初めて、四国代表として「第4回全国高校選抜女子セブンズラグビー大会」への出場を果たした。次の目標は県代表で国体に出場すること。「個々の技術を磨いて、チームのレベルをもっともつと上げたい。そのため、目の前の練習や試合に一つ一つ取り組んでいきたいです」と意気込んでいる。

4月からは大学生になる。練習や試合を制限していた受験期間を経て、より新鮮な気持ちでラグビーに取り組めるようになった。「受験期間中はラグビーがしたくて体がそわそわしていました」と話す。進学予定の徳島大学では、スポーツや身体のことを専門的に学ぶ予定だ。「将来は、ラグビー日本代表に関わる仕事がしたいです。選手として上をめざすことはもちろん、人に教えたり人を支えたりすることも好きなので、コーチも良いですね」と目を輝かせた。



試合で活躍する山中さん